

10月17日（金）の5・6限に、国際理解コース3年生の学校設定科目「日本文化研究」において、名城大学の教授による講義と「盆石（ぼんせき）」体験が行われました。

名城大学の鈴木教授によるご講義では、浮世絵の鑑賞を通して、当時の日本文化や西洋との関わりについて考えました。

分かりやすく興味深いお話に、生徒たちは50分間集中して聞き入り、「あっという間だった」「次に絵画を見るときは、教えていただいたポイントを意識してみたい」といった感想が寄せられました。短時間ながらも視点を広げてくれる示唆に富んだ講義となりました。



続いて行われた「盆石」体験では、南山高校女子部の部活動で顧問を務める先生にご指導いただきました。盆石とは、小さな砂や石を使って自然の風景を表現する、日本の伝統的な芸術で、いわば「ミニチュアの風景画」のようなものです。起源は平安時代にさかのぼるといわれ、江戸時代の記録にも残っています。今回はこの左の写真にあるお手本を参考にして盆石を行いました。

実際に黒塗りの盆に石を配置していくと、繊細な感性やバランス感覚が求められることを実感し、「難しいけれど楽しい」「実際に体験したからこそ、作品の奥深さがわかった」といった声が聞かれました。日本文化の奥行きを感じながら、自らの手で表現することもできた貴重な時間となりました。



↑ 生徒が作った作品の一つです